

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和4年9月30日現在）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■水稲 農事改良組合長会で農作業事故防止を啓発

農業普及課では、これまでも様々な機会を捉えて農作業安全の呼びかけを行ってきたが、8月に管内で2件の農作業死亡事故が立て続けに発生したことから、収穫作業等で事故の多くなる秋を迎えてあらためて農作業事故防止の啓発を進めた。

9月15日には、高山市上宝地区の農事改良組合長会において農業普及課からコンバインでの安全作業のポイントについてチラシを配布し、これからピークを迎える水稲の刈取り作業に際して地域を上げて事故防止の意識を高めるよう呼びかけた。

農業普及課では、農作業事故の撲滅に向けて今後も農業者への啓発活動を継続する。



【農作業事故防止を呼び掛け】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■地産地消 日和田高原で農家ツアーを開催

高山市では、子供を中心とした市民を対象に、農業の生産現場を訪問し生産者との交流や農業体験により、農業の振興や農村の環境保全に対する理解を深めてもらう活動を実施している。

今年は、3年ぶりに農家ツアーが開催され、高山市内在住の親子10組25名が参加した。当日は、高根町日和田高原にてタカネコーンとホウレンソウの収穫体験と試食が行われた。

参加者は、トウモロコシやホウレンソウを収穫する機会はなかなか無く、貴重な体験ができたというツアーを満喫していた。

農業普及課では、今後も高山市と連携して地元農家と消費者を結ぶ地産地消の活動を支援していく。



【タカネコーンの収穫体験】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲 食味コンクールに向けたほ場選定会を開催

9月14日、白川村美味しい米づくり研究会では、10月28日に開催される第8回飛騨の美味しいお米食味コンクールに向けて出品候補のほ場選定会を開催した。

研究会の指導者に委嘱されている鍵谷中山間農業研究所長を招へいし、会員のほ場を巡回して試料の採取場所を選定するとともに、出品についての個別指導が行われた。

年々、会員のコンクールに対する意欲は高まってきており、今回は16名の会員から50カ所を超える水田の申し込みがあった。

農業普及課では、村役場の担当者とともに鍵谷所長に同行して収穫の適期や出品用試料の調整方法などの指導を行った。

今後、コンクールでの上位入賞に目指すとともに、その結果を生かし美味しい米づくりの機運をさらに盛り上げる予定である。



【水田で指導を受ける会員】

■夏秋トマト ほ場審査を管内各地区で開催

飛騨蔬菜出荷組合トマト部会では、近年の課題である秋期の安定出荷を推進するため、栽培管理が優れたほ場を評価する「ほ場審査」を毎年9月上旬に実施している。

出荷組合管内の7部会(飛騨・下呂地域)にて、事前に代表ほ場を選定した後、9月9日には代表ほ場を対象に統一審査が行われた。審査項目は、生育、着果、病害虫の発生状況、果実の品質、ほ場内の衛生管理等である。

農業普及課も審査員として参加し、ほ場ごとの評価を行った。どのほ場も栽培管理が行き届いており、秋期に安定した品質や収量が見込まれる優劣のつけがたい審査となった。

今後は、ほ場の評価点に出荷実績に応じた点数が追加され、12月の飛騨トマト部会全体反省会において表彰が行われる。



【優良ほ場を審査する審査員】

■果樹 リンゴ「つがる」目揃え会を開催

9月7日、久々野町果実出荷組合が早生リンゴ「つがる」の本格的な出荷を間近に控え「つがる目揃え会」を開催した。

目揃え会では、市場4社の担当者から他産地の出荷状況の情報提供と積極的な出荷への期待が述べられた。その後、参加者が実物のリンゴを手に取りながら着色や果実の形等について目揃えを行い、出荷基準や出荷要領について確認を行った。

農業普及課からは、今年の気象推移や生育状況、病害虫の発生状況を情報提供するとともに、今後の栽培管理の注意点等を説明した。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら栽培技術情報の提供や気象データの収集や病害虫防除暦の作成等を実施し、管内果樹生産者を支援していく。



【目揃え会で出荷基準を確認】

■夏秋トマト 高山南トマト部会朝日支部グループ研修会の開催

9月28日、高山南トマト部会朝日支部グループ研修会が開催され、株式会社 Ferme de Soleil が昨年から取り組んでいる高根町にある植物工場を見学した。

LEDライトを用いた閉鎖型の植物工場では、サラダ用野菜、マイクロリーフ、ハーブ、エディブルフラワー等様々な品目が棚に並んで栽培されていた。

慣行の栽培とは大きく異なる栽培様式に多くの質問があり、試食した生産者からは風味の濃さに驚きの声があがり、植物工場の可能性について学ぶ機会となった。

■宿儺かぼちゃ 第18回宿儺かぼちゃ品評会

宿儺かぼちゃは通常のかぼちゃと違いヘチマのような長い形状と口当たりの良い食感で飛騨の特徴ある野菜として人気がある。

宿儺かぼちゃ研究会では技術向上のため、かぼちゃの品質を競う品評会を毎年、開催している。今年度は昨年と同様にコロナ蔓延防止に配慮して関係者のみでの開催となったが、一般部門27点、大物部門10点、ユニーク部門23点、字彫り部門14点の出品があり、行政や市場関係者、JA職員による厳正な審査が行われた。

どの部門も生産者の思いがこもった出品で、審査もたいへん難しかったが、一般部門6名、他部門で各4名が岐阜県知事賞等を受賞した。

農業普及課では、今後も研究会と連携し、高品質な宿儺かぼちゃの生産、ブランド維持に努めていく。



【入賞した宿儺かぼちゃ】